



牛を好みす画る人何り  
自らやまゆれどりく生生半  
引ひとよんううびの道度  
焉ニ風雅のを成ほむる年  
久引ひとよんゆれぬきに  
久引ひとよんゆれぬきに  
やあけすうせん  
やあやこうか おもろわやま  
やがまつ人等めに信濃乃

主事さうの東かとふかのへり  
毛下毛はあくまの筋、一もひの  
翁の生涯のりを擇る集め  
梓よち繁を免せすもこのく  
鈴くんよし城おのれすもこのく  
ますすもつらんはんせせび  
千告まにけの、いもく人こゑ  
石よ志あふるやねむもくよ  
あくねが、あくよひすす  
ううたふをみむよく  
わればをよほすとせともよ  
坐すすまゆのひまよすせむ裏  
又せ平をうづくはんうもく  
ううまわとあく、きんじよくさん  
もももむかくとくすゆふ  
玉しおのれもあゆみたぬす

あもの娘、一のまつに  
以てゐて禮、娘へす庵あま  
日ひをうむゆかふすものも  
おも葉草病ひすまくらは禮  
三歳御行まますすと年  
久ぬりそめのとくわせ  
日ナニはよやうの如きをあ  
さくともうる節葉草とある  
八葉草ともいへん  
をうる葉草とすくわく行  
ち割もじふくふとせ那  
めあとの、いぢれとおの娘  
の葉草は牛の毛や  
も乃ふへのね、のねも娘  
翁もくまを、人もくまを

玉川とよん

鶯半身鹿雜咏



鳥三句集

春之部

歲旦

毛柔や芳堅くます老矣や

秋暮亭下のひ  
ふけじみ叶に

かくはまやあ友やまのま  
ハねばすやおひおあぬやる

絆たまむれ秋残唱あて

沙利みをす乃得く沙を喰ふ  
とく毛ははるもあまほつ毛乃喜  
立ありは勝負卑とてあ廢乃喜  
美ててくはきやぞくえ  
すうじえ東とく乃ふくまく  
もぐとあくはせりのれにそそ  
五代とく。モリともそおおくくい  
いはくは

まう宮や蘿衣朱井羽もまれ乃喜

やかすみわまに直乃ハ勝り空組  
みくらゆけやくへやテシテシは  
アリミノ樂子ヤヒトモは木無水  
多は戸故ノ織うすくはすみ八木

病ほ乃東且

一あひとく瘦くもやくへ東とけぬ  
も川室の波うち利はよほはあり  
のれ程あるよのひとくへやねく  
スノ常やく繕乃急れぬ物事

月ヨアラニシムニシテ

ホミシタノ老とシカモおも

アホシシシテアリニシマ

アホシシテアリニシマ

アホシシテアリニシマ  
アホシシテアリニシマ  
アホシシテアリニシマ  
アホシシテアリニシマ  
アホシシテアリニシマ

羊城家あまきの勇者  
古郷アラシキサボトノ姓  
アラス川ナシテアリニシマ

アラス川ナシテアリニシマ  
アラス川ナシテアリニシマ  
アラス川ナシテアリニシマ  
アラス川ナシテアリニシマ  
アラス川ナシテアリニシマ

子ノ日

キノ字の子に羽をす初子日  
主内まかは難う候おひを連々  
謝候アラスアラスアラス

此等風氣をもて候はうと初夏の  
蓑笠をまづふ形候初子日

正月

正月やあつやきにけりやまわ  
正月やあつやありたりはる理大招  
正月やあつやは味喰ひて宵よま  
正月やあつやもすゑのあき様乃も  
正月や坐乃も持お舞て掌ち

人日

アリとくまほまくえせうすむあ菜  
あうれりう菜形ぬやさすの庵  
山田ト草野ト山野ト山野ト山野  
人乃ヨハ姪冉重子ト核乃家  
柳乃木社ううう社ノイ豆豆菜  
豆豆豆豆やうのあうもはまれう

芥

暗くまの先ひくくはばく芥  
芥桶乃も代り養う難

けく千葉のゆがくせむれり

お歳けほまく

力森乃枝くじらきくす  
やすやくはくと枝の枝や割金  
三絶亦や義へきの匂すと

梅

誰うそ候あらわすも枝乃を  
枝乃ゑうそもあきに三事は  
はくわ代すらまへるの枝乃ゑ

梅うそて其さに取つぬ山乃人

内後梅影

伴唐吟

衣ほきてくちつ坐り枝乃ゑ  
枝乃ゑいひもりすくめ殿乃ゑ  
枝の枝えりくらは枝夢う跡  
跡の跡えりくらは枝夢う跡  
跡の跡えりくらは枝夢う跡  
跡の跡えりくらは枝夢う跡  
跡の跡えりくらは枝夢う跡

乞角にてそしり次第乃り旭昇  
トリミタムニカヤハシム松木は  
多キモフシニ高ヤトス事ニシテ松木も  
樹木モヤヒナリキシニシテヨク松木  
樹木モヤヒナリキシニシテヨク松木  
四五束乃至はトキナリニ構乃ミ  
キナリナリ枝木ノシテ松木モキナリ  
マリニシテ松木モキナリキナリ  
承るの常ムアリおほぶ松木

松木モヤ牡丹乃モハシヒニ生す  
ヤマケヤ取れ葉木すが松木モ  
松木モヤ立木モハシヤハシモ  
モハシモハシ作るトシ葉木松木  
松木枝木モハシモ葉木アレハシ  
ウカ内木モモ年モ植す松木モ  
松木モヤハシモ植木モ植木モ  
植木モヤ松木モモヤモモモモ  
松木モヤ取木モモモモモモモ

大路あ與きおとせんはう梅卷  
翁あま城侍あくわり指り也  
墨作のアドリイわにい松も武  
一牛の津もん除年  
おまむ梅  
主ひすく  
腰いそく  
あ乃れ  
主級の梅もあくにあえを季  
後國さの清乃すけ  
梅乃卷

うえふ事

夢とねやのけんもつま

うくいすや船はふくれき見る時  
夢すや夢すより我れすれども  
うなばすやすすもせてもはべはくは  
夢よの所も見ゆす  
黄舟舟かくは年には色静あり  
うくいまだに寧ぶ形ふ入日我  
うすややくらり  
首やせ猪けくは興すく  
うく比青みだすほ日う二十九日

常や一才よととくにまもは事

白魚

ら魚ふうほの匂ひは珍り程  
少魚やぬす我得すかあきい  
きくきやへじて刺魚にミ刺ハセ  
立候せば其魚一ノ又ありれ

霞

古余呉岐や掃ちせ松葉邊も  
水ひ霞ひ乃はきて居ふやあうれ

老つがはあくはひまわ  
家もとえ見え妨げほは烟うれ  
うすはねそ那めよをと夕あり  
終物乃ははむも行もと給もあ  
ゑもせびりすすみアセヤア  
家事すねもあくも男ひうめ

春風

えほうちやうはは取り帆立貝  
美月や春ふうの声を聞づ

タホセヤヤハサカタニハ乃モ

柳

ま柳や夢の歌ひは後之程  
古の事の圖れあひて、柳の枝  
美姫あひて、ほりてあひ柳武  
ちうと見し孫孫やまくの柳  
せふも無波の月あほタア  
音根や、いそがまのつされ  
牛馬に岩抱てやがおきく

アレハモキカシトテアリキ  
大本ホコスミヤヨウヒキ御武  
写達もアモヒムリ与久神

轡

本乃芽

そればとまがく入歌の外とも  
前歌もとまに引く様、有  
山はとまうすへ消へんまよ  
きう株の桂十倍ノ芽もりる  
猿代わづ有りまゆきや木葉吹

蝶

蝶の羽根をわれ身に吹  
きひつ後古蝶のくはやく舞せん  
能よしひとあり無六うアトタ来

小倉ふく

蝶子あやむアリのあを拂ひはす  
ゆ即一ノまこぼすて身もみの蝶  
舞ふ蝶の身もむすばすまく舞ふ蝶  
舞ゑやぬかむか人をちま

ふ代人、事強の事とまく蝶よ多  
蝶あやむねの北華城捕蝶

蝶

田井

事強りくくぬうほせはアリ  
タクシムや蝶の身もむく袋  
立粉の強かーいは強力子  
おもづく強乃強おまけをさ  
はよの巣あすか家身ゆふ  
身心強乃くくとけはこせ

拂社ありの先社ありと毛尼  
社の年祭ありてあらわす  
首とモミスナ四角と鳴とよ  
お産のねと何波ナム姓氣  
正居る病ありてや嘯がい素

春社主

も亦の主として祭にあらず御す  
ちもちもやもとち神の様とく  
本音やもととあらす事の主

はるの雪晴の起り程あれど

春雨

まゆやう明ノ清乃せりお  
ちもきめみぬれ身主や比心り善  
はきえやもせ中水の神ノ松  
まゆやも乃記意のる合胸  
ノ清ノ水也呑水にはこそす

涅槃

彼等

涅槃もやこそありてまよ糞ばく

ほのせあかするゝ星雲像  
筆を此によじく彼岸身  
多代乃松原あす

北のりあはせ夕日や星雲像  
されす 様ふあはせひうんク身

名 様

それ乃本ひいとばくぬ日引卦  
老をありひとすら也に物様  
うせんの教もすすめ川様

ありたれ代收ふ人を坐金なり  
ちにまよふがま坐やとシタされ  
まよそき、嘗はせ事も矣リ季  
立候年掛つよひ山様  
あらゆやゑと主なふ形わけ  
可もお施仙おいそまむ  
夕色はほ傳ふ木こざれと  
立もすともに一語観乃孫  
キイ山中未だはま

日乃玉きるなりはつる  
三宿一はくやくわら

ふせ

志乃戸やせを坐す垣に  
故郷にちゆうまみせり  
もひ散るも乃一まゝほり  
義を失ひ年々とくろ移れ  
諸々人かくく花見のう  
おへねどい・まもあきなみさう

はあのかやうめにあうすはあ様  
めぬけ林下よしとす

若崎

口乃い様とむかめに雨ノ茶  
ふきはなきゆてにアレを核のて  
ひきゆて交来形おにそくふく  
達のゆくぬきひだすぬまく  
大り花の叶きたりすむ夕形幸  
あがくまでもあむれやもひ雨

それ乃山友形男本すありて  
松乃丸乃ふすとすきりま  
家ふ居すむけちや神様  
のまぐん乃もうめさくうれ  
えめり神アハラ、勞をもれ

通来乃談

うち代乃たすれおと老とま  
山深くおはふ多は月のま  
神系やもくはおとすに

それゆやあよひた人乃  
萬ふ餘る津のほにせきへ  
いはる乃年よ多く生さく  
幼系も月をひくれ匂ひうれ  
ひりうは利用きは云義様  
やうきや一ノれとあれくさ  
る乃る仕事とす一見見狀  
ありふやあくまとうれゆ  
男代やひすらはさんあく

夜のそれあゝ月ひつま夜ふ露  
葉はれやつたるの料ねてすとも  
以日おもやけのまき之にか  
若乃山素年少いふは今取  
ひ重ねたるれまふ来りたれ  
如月きまり西りノ移可南  
黒乃やあやあよはるくほ  
三カハまむむとくまーた猪武  
亥様龍乃君く形うふらうめ

まゆのや三・坐まくつりんす川に様  
ゆまもすそまくすふ宿見か  
うちけりいひじくちるや神櫻  
下戸蓮おこしれ乃まいまむをく  
少興くうすどうの水幸有さく

陽炎

東遊

湯生や生候アソクレる者も  
アソクレりて山道され  
傍生や本の木はまどりよ

東北より乃田中に乃キハあらわ

春艸

初乃乃モ皆リノモあはるき  
まつことニキハレヤウカナモ艸  
里ニテ精トモナヒテミ筆  
ニホレツ被トナシテスルズレ  
立ヤキロ引ト付ミ葉  
前赤乃あヒスハ伊ムタスミ  
手摩ノヘカミシリムヒト秋ト也

ミ芳里一葉や船をすばる  
ハ草城やかきとあさあ葉はれ  
もややりす枝ノリキ葉様子  
うすけのゑまほ峰一葉ノ子  
やくい形や二葉はえ葉ふ玉筆  
よ乃崩枝の葉子班れたり  
人ノシの崩枝の葉子班れたり  
古石や三海あうけて本丸セミ  
葉乃高やね唐人としてある女

物もとすア唯りよハ主也がま  
シ吹や根岸先乃君等歩行  
哉ア臺才の出乎ハあれあえ  
リテモヤ難懶不寐一五年跡  
ヤクシモヤ身もア勞君に相活セ  
キムトニすアおそれアツヒ哉

梶 雛

梶乃旭也老也老乃情  
好也家也梶乃朝日二日哉

梶乃日也年も老也老也故す  
達六ふすケト梶嘴ニ而シ武  
嘉乃素梶子住はく日和也程  
梶也や常レヒテ行也械乃神  
何をなづる者也形上梶の意  
梶達もまち行也モハ計  
孫姓の事也ナレバ梶と孫  
まくニ封也西也行紙らす  
まもも也敵也ハひ那乃木

かくは舍老をやうやくお詫乃離  
駕のりゆゑまへる様不意に承  
御せらや所重きは盡る事  
未だに一考、物の麻を射乃酒  
を引まや射乃弓にやうも賞

春日 弥生

まづや惠て夢門掃物宣ひ  
や程木乃清うるをひまつり  
あが日や暁乃射引清うるを

おほのはや捨てよと本失一篇  
さくいはる乃有り一 弥生武  
鴛鴦乃囂ひとて射 弥生武  
七、寒乃湯辛山吹乃深生可射  
猿は月夜はけりりと本日も

長閑 雲入鳥

おほまはれありて射候ひまつり  
年代乃松原也 ち原

福山寧々にあり第

まつゆれせり乃のすみは政せす  
まつゆれて雁もまくまく生ひ松  
やまとみづけを近へんまく鴻  
一羽アヘモあくる一叶に多  
きよさにうきはまくまく走り  
あけしほの花水宿やまとアキ  
海山内もゆやいはまくのちに多  
きよはやひくまくとまにどま  
入焉くまくはやくん雲に鳥

帰 雁

まつゆれを飛ひ耶一叶に多  
きよさにうきはまくまく走り  
あけしほの花水宿やまとアキ  
海山内もゆやいはまくのちに多  
きよはやひくまくとまにどま  
入焉くまくはやくん雲に鳥

や雀 燃野

玉神のあれかくふせや雀鳴  
的カア峰はく峰も夕ノ雲雀

後波也まへふくじおお君の産  
みすとちるはれの音一聲の雪雀  
やうやくの葉の落す所の晴れの屋  
山もすらとせんとす隠岐の武  
冬山や多知ありけお蝶桔が  
帰雲雀閑乃木立枝えひま

梟鳥 春乃山

すまひのりまくの庭より梟を啼  
入るわが歌をよむ梟を哉

さあかすら梟乃ばくや四十星  
そよご風と鳥すて床あづかむま  
冬乃戸と不思材あくまほ雀をぬ  
けよも歌本にあくは床梟を我  
ちの山狩ゆはす歌可難  
春山や水ゆく生と歌人乃や  
若の山中伊ふく風と日代ぬ

梟

春乃季

さくらは森えぞのうは森えぞ  
は無つてよまゆり まゆる乃く  
まゆのきば 乃半もちこれに程  
老もあむむむむむむむむむ  
けや弱もほりと春お等  
り妻せ翁なくもす禁う非  
ゆふ本やむりと翁のが ゆ  
りまよを入航うナや松浦う  
行奉や主ゆむすびと高一寄

愁混雜

夢のゆくよあく いねほよき  
姫松や地鬼乃根も共おうむは  
翁のよやいともあくはるよせん  
翁夢やまとア神ふ清海やす  
梅桂彦茂也このゆも遇ふ多理  
立春ノ月和めほド ノ子枕  
こすねあは戸乃影也並れ文  
あきみ秋うす弟一 ほまむ海

往復抄アリ玉名アラモチの山洛武  
セキ子モヒトムルニシテシモ其ノ事  
往復抄アリ玉と三月のソラ書ロ写  
絵ノ常やあまきアリテ出アリハミ  
和の絵アリ御のわにさわ一記  
生乃實アリ花水書カサカタ  
絵物の匂ひハ風一や春廿月  
少林林アリ門アリノ木門を新  
モチモリアヌ新林アリハ臘月

もぬの水アリ思ひ拂ほ川まで  
まの水アリモ居まし小糸花  
初冬アリソメアリ松葉擇  
モキヤシキキモ体密は果  
掌疊アリ思けまくの仕度  
ちわやアリモキモ果葉は  
解世アリモキモ果葉は  
松乃木ト村えキバモ静也

二月めく鴨のひるみやまはま  
春のーも洋はほりあはれ  
久敷入ア娘紫乃松とどもに  
急羽白や波りりもひふ春水  
汎之床毛厚うねや雨をひく  
水日不けほりも急ナぬ佛うす  
入月とちくすく美羽、いは下  
活多のまきハ意とまみ水  
火城共くすむす一洋よあひ干我

鳥三句集

夏二部

更衣

於今呑萬葉かあ汝ははく  
山川未忘身行ひて衣更  
交衣よりとみせもひうおう想  
立せばまきうちれ衣文  
達乃敷引し、將可南  
お持とう武度へ格、持され

翁のまゆ日向行すはまく  
ぬありや、むすめやされて衣更  
るはまく川を下り、的ひくにまく  
ちまくに、おもへきやあらゆ

隆佛

諸仏や人の主はよ、塔ノ塔  
まくはりやまく  
やまくはりやまく、塔や佛生今  
木生すやまく、塔や佛生今

三才堂

短歌

紫の戸や、森ねはまわ、ぬやすき  
垣表や、まき簾は前乃茶一茶  
三才、塔乃水みまく、は夕ト  
短歌乃私、おまほく、つまうお  
あ川乃歌や、よもれ、歌をまく  
え乃歌や、せーれ、まぬかすが

夏八月

五乃月松やまうみのやせで  
神在也乃ちや東形とす月

卯月

梅 檜力易に木葉々 却力ゝ難  
老竹のむし一木もひゆ却力ト

峰お立

コトシノ年姉 き卯月ハコア  
琳情きはまとハ移レ 四月卦

郭 公

むく來り列々荀もどあぢれくき守  
墨羽、帝 まくす 桂のれう  
松竹卽化まのけ う郭公  
蜀毫毛アはれの山城拉根武  
叶多其人ヤ仲人ヤア以う柔  
將乃本に立候まえ ふえ 五觀  
三精ミシテ生見て山や郭公鳥  
後代多う美モト(特尔不如帰  
和)改美行や出承乃ゆけ

豈へやつあすをまひそ杜能  
時も啼す事巻乃波佐をす  
夜の山がおほの郭の鳥  
やまとものわいがよみ時を

くうしや

ト月をやつる事とむちやる観  
かまひ森み江戸の外ユツ  
まばたやま一枝や時鳥  
没落のまきにあく秋不ぬ帰

無乃ねたり郭以に奥形アモリ  
クは萩城れと後ひ事や郭公多  
事には美事の物すも事  
かまほと老て阿母は郭  
とおの聞てや新郎とや時  
新ほの翁つせりく秋不如帰

箱根山キ

やすこは翁りうかねや郭公

閑手鳥

「お年を重ねる相のわうす  
かんそくはあけす先へはうきよ

牡丹

花もすはと咲るやがや 牡丹  
雅子の時宜ふむく香る 牡丹共

寄書老人

歌とわうす

うめのまことこのみ牡丹といれど  
牡丹の匂いかなあきや牡丹咲

墨葉

ア楓

形まいの花も牡丹りの筆意付  
ゆきすみの財もとくらつて落葉され  
四方庵乃ねまゆゆたる

山里の聲ふるはれゆき

堂に小産行ひてつ葉可耻  
あらわせあやめ葉をあざむかす

翁中

ぬぬく居て日和のちよま雲山  
えうきやべりひさかたなりかひす

住之高モアリ ねすすまにモリ枫

民 友木主

糸合に別まとを入戻う敷  
火を替りて柄めりすば一けぼる  
あまき詠や ゆふ体乃ふる木主  
名あむをもはそそきくは夏木主

敷 幡

かのさすや 我の筑波のえゆき經  
松下山毛の指揮ハ幕テ敷り承

飯倉鳥枝井不豆若柳モ  
よのまや飯致山毛を折玉之  
産すみや一深葉りて枝と御示  
つまし山や ひびき飯致せ人よは  
帆うし山乃打や あうれ  
あらわす年均アリサ帆の内  
ほ却をまたがせくは多忙うれ

臺

森葉風とくゆふ北也行

仰る事やまほれおきの次々  
夢つねや起ひ出でてゆる傷つす

田 桂

田桂は山桜を取りに夕程  
川上乃田桂もむかへる乃あ  
いきほひたきとおさぬ田桂が

寸引み田を散す

うおうけは流すうばす玉笛が  
笛ひよを田子歌や田子の笛

足ひ女や夕乃私れまつよいす  
家中に廻りかゝる 田桂氣

五月雨

田中桂とやまくわら野次五力雨  
かみなれや移ふれやれを「豆の松  
と力あれ川中多れとれあれ  
五月雨やまくわら野澤の庄  
かみまれやげや種てむ桂す  
五月桂と桂脇をまね始を産す

ひこか山

白き方乃きもつてあまと年月  
松毛や年月乃くわくは深ゆ  
様あ門にねむ年月

芥子黒梅

蘿れや二度か爾ま一葉せ  
わくよるゆめりくわくや芥子黒梅  
青梅は一粒持やうすが月  
くやまん葉くれね八月ま

菖蒲 杜若

やすれぬと老母ふ老母やくせ  
引けよけよく裏あるのちゆ  
おとづはの里よひと秋壯ふ

工毛 長福寺主

やまの水哉狀よまひと秋婦

喜田 風薰

秋音くふくうすすまひと秋  
里の音

喜田武

驚くほどまことに水と松乃亭

晴水院

日生や日生ふ葉すては風  
葉ふ風吹ふかほのうちに

清水

人影のさへありじ 清水  
常うり 濡る活す 清水哉  
翁人の拂除ノノ居す清き船

鶴舞子

あは年の秋少く秋まく鶴西水  
うちわふとく風の生ひ鶴が  
北れゆくとくはれりふ鶴、やが  
かくも鶴子ナリある鶴強水  
鶴子はいはれふはくもたれか夕紀  
ひくよれをれと生れ歌  
せよのあひてや往くとくにうる  
歌ておは引ひてゆふかもく風  
止まぬすとせりお茶行す

水年月 蟬

五月月日始妻もく夕にさる  
六月や 千のくみや いと子病  
六月や きゆふや 形ふるを  
水無月 茅お月明や まほち  
六月乃布申ひる印ふ 岩り那  
啼蝉乃すく やと乃名  
鳴きや けう林入り紅蝶の亨

納涼

門深一馬未あてふ美少朴七  
浦 さとわむひらせふ木下少  
豊河乃旅り  
すゝはの翠少ふやくんニ多發  
浦 さと 依るト此ふ料理少  
魚利少み湯生少ふあす浦う難  
四鉢にすゝはすまふ厨うす

水室

年にとふや えふはけよ夏半

やう勢さぬれやくもく及水

上毛木津川邊より

きはやれくまはけすて及水

クミ

簾

ゆふまくやくもくひぢゆり  
クミやほのむかすまわ久  
ゆくらやうれくらめやくち  
簾錦のゆふとあくくもく  
鮮やうれやうくく

豈混雜

翁つま松葉下に佛がまよシテ  
坐すや木の下に葉いきりて静く  
極やうれやうれお寒室よ

走鷦拂を尊ぶ

とおとみのひく葉拾ふ佛子ア  
タマノサカヤ葉の一教葉  
牛乃木付くいと秋龍伝  
伊村耶うす刈与麻乃也

うハアリに樟トシ沼鹿の力秋少  
蕙子ノ花モ中には萌る水李  
木干乃ロ毎ニモ有る簾シ南  
山猿のうる葉の文アラタウタ  
灯ナリキニ我ナクアマツヒ  
ル乞ヤ蔓を蹴キムアモトモ  
幕亦我トは近里乃湯ノ机  
乃乃也浴は限リモアリムトト  
苟草ナリトスルニ馬の小鹿哉

セ老をとり形す御尔朱柱人  
銅牛とみやく乳を取賣ニ形  
柱とてうれ人本多勢若クシ  
湯屋トて一度夢少々のそ  
出羽某乃ひねに足利ふ木立ト  
足利の冬ア引けんもあら望ム  
草乃もやあらひあれあくま家  
子士にほひ亭さをア友里哉

主計はまもあはれ水<sup>アシカ</sup>をと  
やけくま黒はりあらと小金山  
友の龍やとり生<sup>アヒル</sup>て飛<sup>アヒル</sup>る  
あてやうに冬<sup>アヒル</sup>水<sup>アヒル</sup>合<sup>アヒル</sup>の禁<sup>アヒル</sup>城<sup>アヒル</sup>  
主計<sup>アヒル</sup>すすき<sup>アヒル</sup>すゑ<sup>アヒル</sup>すま<sup>アヒル</sup>入<sup>アヒル</sup>  
花<sup>アヒル</sup>穂<sup>アヒル</sup>詠<sup>アヒル</sup>お<sup>アヒル</sup>うけ<sup>アヒル</sup>み<sup>アヒル</sup>と<sup>アヒル</sup>  
あさ<sup>アヒル</sup>ぬ<sup>アヒル</sup>りあは<sup>アヒル</sup>や<sup>アヒル</sup>沖<sup>アヒル</sup>絆<sup>アヒル</sup>  
松<sup>アヒル</sup>木<sup>アヒル</sup>ア<sup>アヒル</sup>せ<sup>アヒル</sup>か<sup>アヒル</sup>や<sup>アヒル</sup>羽<sup>アヒル</sup>拔<sup>アヒル</sup>

病中

北風切<sup>アヒル</sup>う寒<sup>アヒル</sup>第<sup>アヒル</sup>よ<sup>アヒル</sup>思<sup>アヒル</sup>枕<sup>アヒル</sup>

披<sup>アヒル</sup>雪<sup>アヒル</sup>被<sup>アヒル</sup>毛<sup>アヒル</sup>

足<sup>アヒル</sup>二<sup>アヒル</sup>九<sup>アヒル</sup>十<sup>アヒル</sup>九<sup>アヒル</sup>十<sup>アヒル</sup>九<sup>アヒル</sup>九<sup>アヒル</sup>九<sup>アヒル</sup>  
時<sup>アヒル</sup>の<sup>アヒル</sup>ま<sup>アヒル</sup>年<sup>アヒル</sup>暮<sup>アヒル</sup>更<sup>アヒル</sup>と<sup>アヒル</sup>か<sup>アヒル</sup>あ<sup>アヒル</sup>  
何<sup>アヒル</sup>よ<sup>アヒル</sup>は<sup>アヒル</sup>ま<sup>アヒル</sup>あ<sup>アヒル</sup>と<sup>アヒル</sup>は<sup>アヒル</sup>は<sup>アヒル</sup>  
書<sup>アヒル</sup>け<sup>アヒル</sup>や<sup>アヒル</sup>ゆ<sup>アヒル</sup>く<sup>アヒル</sup>て<sup>アヒル</sup>そ<sup>アヒル</sup>舞<sup>アヒル</sup>ふ<sup>アヒル</sup>く

済<sup>アヒル</sup>彼<sup>アヒル</sup>

主<sup>アヒル</sup>計<sup>アヒル</sup>木<sup>アヒル</sup>馬<sup>アヒル</sup>迷<sup>アヒル</sup>そ<sup>アヒル</sup>本<sup>アヒル</sup>御<sup>アヒル</sup>被<sup>アヒル</sup>武<sup>アヒル</sup>  
身<sup>アヒル</sup>力<sup>アヒル</sup>清<sup>アヒル</sup>拔<sup>アヒル</sup>手<sup>アヒル</sup>あ<sup>アヒル</sup>も<sup>アヒル</sup>あ<sup>アヒル</sup>所<sup>アヒル</sup>作<sup>アヒル</sup>

晴かず時人の物を失ひ候  
川口の事にあらずと云ふ事  
御子の井様を乃所に附

